

「三重積分」の合否判定基準

- 変数変換は自由に用いて良いが、ヤコビアンを忘れたり、対応する領域が正しく求まっていないものは「否」。
- 変数変換を用いるにせよ用いないにせよ、最終的に到達する累次積分の3組の上限下限が一つでも間違っていればその時点で「否」。その答案の残りの部分はチェックしない。
- 原始函数を間違えて求め、検算を書いていないものは「否」。
- 上記3つの条件で「否」にならないものは基本的に「可」以上。
- 答は正しいが、答をどのように求めたのか不明なものは「可」または「否」。
- 「可」の答案に書かれた指示を一つでも無視して再提出した場合は「否」。